声なき感染症を知る ◆38◆

手足口病

5歳以下の子供中心

今年は流行の可能性

県感染症情報センター

▽手足口病とは

手足口病は、口の中や、手足などに水疱（すいほう）性の発（ほっ）しんが出る、ウイルスの感染によって起きる病気です。5歳以下の子供を中心に、主に夏に流行します。

ウイルスに感染すると、3～5日後に口の中、手のひら、足の裏や甲などに2～3㍉の水疱性発しんが出ます。発熱は約3分の1にみられますが、あまり高くならないことがほとんどで、高熱が続くことは通常ありません。

ほとんどの患者さんは数日間で治る病気ですが、まれに髄膜炎、急性弛緩性麻痺（しかんせいまひ）など、さまざまな症状が出ることがあり、注意が必要です。

▽病因となるウイルス

手足口病の病因となるウイルスは、一般の方にはあまり聞き馴染（なじ）みのないウイルスですが、主に「コクサッキーウイルスA16」と「エンテロウイルス71」というウイルスで、そのほかに「コクサッキーウイルスA6」や「コクサッキーウイルスA10」というウイルスによっても引き起こされることがあります。

それらのウイルスは、「エンテロウイルス属」として総称されるグループに含まれます。エンテロウイルス属のウイルスには、予防接種の対象となっているポリオウイルスのほか、コクサッキーウイルスA群、コクサッキーウイルスB群、エコーウイルス、エンテロウイルス（68～71型）などの多くの種類があります。

▽感染経路

エンテロウイルス属に感染するのは人間だけといわれており、感染経路は接触感染（患者、病原体の付着した物品などに接触して感染すること）と飛沫（まつ）感染（せきやくしゃみなどによって飛び散る飛沫に、病原体が含まれていて、口や鼻などの粘膜から感染すること）などです。

病気の症状がはっきり出ている急性期に最も多量のウイルスが排泄（せつ）され、感染を起こしやすいですが、症状が回復してからも2～4週間の長期間にわたって、便からウイルスが検出されることがあります。

▽最近の流行および症状の傾向

グラフに示したとおり、このところ手足口病は2年に1回流行する傾向が続いています。直近では平成27年に大規模な流行があり、昨年はほとんど流行が見られなかったため、今年の夏は手足口病が流行する可能性があります。

まだ集計途中ですが、今年は5月のデータとして手足口病の患者発生報告数が多い傾向にあり、これから注意が必要です。

また近年、コクサッキーウイルスA6による手足口病がよく見られるようになりましたが、このウイルスはヘルパンギーナの主な原因ウイルスでした。ヘルパンギーナは手足口病と同様、子どもの夏かぜとしてよく知られている病気で、発熱と口腔（こうくう）粘膜にあらわれる水疱性の発しんを特徴としていますが、通常手足に発しんは出ません。

コクサッキーウイルスA6による手足口病の場合、従来の手足口病に比べて水疱が大きいことや、発症後数週間してから爪の脱落が起こる症例（爪甲〈そうこう〉脱落症）が報告されています。

▽有効なワクチンや予防薬はなし

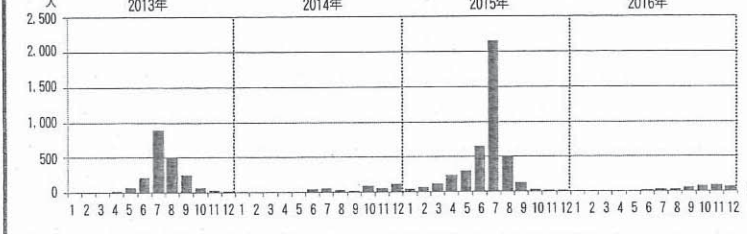
現在、手足口病に有効な予防接種はなく、また手足口病の発病を予防できる薬もありません。治った後でも、比較的長い期間、便などからウイルスが排泄されることがあります。一般的な感染症対策として、流水と石けんで手洗いをしっかりすることが重要です。

▽重篤化を防ぐため注意したいこと

基本的には軽い症状の病気ですが、まれに重篤な合併症などが起こる場合がありますから、経過観察をしっかりと行ってください。

高熱が出る▽発熱が2日間以上続く▽おう吐する▽頭を痛がる▽視線が合わない▽呼びかけに応えない▽呼吸が速くて息苦しそう▽水分が取れずにおしっこが出ない▽ぐったりとしているーなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

（県感染症情報センター）

＝第2木曜日掲載＝

4年間の手足口病の月別患者発生報告数（奈良県感染症発生動向調査から）